

日本の文化としゅうかん

動画URL : <https://youtu.be/-qjvIOiG5R0>

今回は「日本の文化としゅうかん」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があります。
後半は少しだけ速く (+20%) なり、漢字に " ふりがな " はありません。
学習にお役立ててください。

■私のこと

私の名前はリアム木村です。日本人の父とアメリカ人の母の間に生まれ、ようしょうきはアメリカでそだちました。父の仕事のてんきんで日本に来てから、日本の文化やしゅうかんにきょうみを持つようになりました。アメリカでは自由でたような考え方がじゅうしされますが、日本に来てはじめて、れいぎやあいさつが日常生活の中でとても大切にされていることを知り、おどろきました。そして、日本の生活についてもっと知りたいと強く思うようになりました。

今では、日本で生活しながら毎日新しい発見をしています。たとえば、すれちがうときに「こんにちは」とあいさつするしゅうかんや、見ず知らずの人にも「ありがとう」と言う場面をよく見かけます。こうした日本のれいぎや、たがいを大切にす文化がとてもすばらしいと思います。

また、日本のしきに合わせたぎょうじも楽しみです。春には花見、夏にはおまつり、秋にはこうよう、冬にはお正月と、きせつごとに楽しむぎょうじがあり、それが人びとの生活をよりゆたかにしています。これからも、日本の文化やしゅうかんをもっと知りたいと思い、毎日学びを続けています。

■日本のあいさつとれいぎさほう

日本には、どくとくなくあいさつやれいぎがあります。たとえば、おじぎです。日本では、人と会うときにおじぎをします。おじぎには、いくつかのしゅるいがあります。たとえば、頭を少し下げる「えしゃく」、少しふかく下げる「けいれい」、さらに深く下げる「さいけいれい」などです。おじぎは、あいさつや「ありがとう」「すみません」など、気持ちを伝えるときに使います。おじぎのかくどは、そのときの気持ちや相手によってかわります。

また、日本では、毎日の生活の中でもれいぎが大切にされています。たとえば、だれかにたすけてもらったときは「ありがとう」と言います。何かしっばいしたときや人にめいわくをかけたときは「ごめんなさい」と言います。これらのことばは、相手に対するかんしゃや、あやまる気持ちをあらわします。日本では、こうしたことばを大切に、正しく使うことがもとめられます。

さらに、日本では「けいご」が使われます。けいごは、目上の人や年上の人にたいして使うことばです。たとえば、先生や上司には「～です」「～ます」をつけて話します。また、目上の人のことばには、お話・お名前・お肉・お魚など、ことばに「お」をつけたり、ご飯・ご着席・ご案内のように「ご」をつけて、ていねいにひょうげんします。こうすることで、相手をそんけいしている気持ちをあらわすことができます。日本の人は、こうしたけいごを使うことで、相手をうやまう気持ちをしめしています。

日本のあいさつとれいぎさほうは、外国の人にとっては少しむずかしいかもしれませんが、これを学ぶと、日本の文化にさらに近づくことができます。

■きせつのぎょうじと楽しみかた

日本では、しきに合わせてさまざまなきょうじがあります。まず、しょうがついちねんの始まりをいいう大切なぎょうじです。日本の多くの方は、新しい年をむかえると、神社に「初もうで」とよばれるおまいりに行きます。また、かぞくや友だちといっしょに「おせち料理」を食べたり、お年玉というお金を子どもたちにあげたりします。しょうがつは、かぞくとすこす特別な時間です。

春には「花見」があります。花見は、さくらの花がさくじきに行われます。さくらの木の下で、友だちやかぞくといっしょにごはんを食べながら、さくらを楽しむぎょうじです。多くの人がこうえんに集まり、きれいな花を見ながら楽しい時間をすごします。さくらは日本のしょうちょうでもあり、春のおとずれをかんじる大切なぎょうじです。

夏になると、日本のかくちで「夏まつり」が行われます。たとえば、東北地方では「ねぶたまつり」、東京では「すみだがわの花火大会」などがあります。おまつりでは、たいこの音や、うつくしい花火を楽しむことができます。また、屋台とよばれる食べ物やおもちゃを売るお店もあり、大人も子どもも楽しめます。夏まつりは、あつい夏の思い出を作る特別なイベントです。

秋には「もみじがり」があります。もみじがりとは、秋に色づいた木々を見て楽しむぎょうじです。「もみじ」は、秋にはが赤や黄色に変わる木のはのこをさします。「がり」は「かり」のことで、秋のうつくしいこうようをさがして見に行くことを「もみじがり」とよびます。こうようは、木の葉が赤や黄色に色づくうつくしいきせつです。多くの人が山やこうえんに行き、このきせつならではのけしきを楽しみます。秋はきこうもよく、さんぽをしながらしぜんのうつくしさをかんじることができます。

冬には「せつぶん」という行事があります。せつぶんでは、家の中に「おには外、ふくは内」というかけ声をかけながら豆をまきます。豆をまくことで、悪いことを追い出し、いいことを迎えようとする行事です。かぞくみんなで楽しみながら行える、日本のでんとうてきな行事です。

こうしたきせつごとの行事を通して、日本のしきをかんじながら、かぞくや友だちとの時間を大切にしています。

■日本の食文化とマナー

日本には、どくとくな食文化があります。まず、和食についてです。和食のきほんは、ごはんとみそしる、それに魚ややさいのおかずがくわります。ごはんは、日本の人びとにとってとくべつな食べ物で、むかしから主食として食べられてきました。ごはんとともにみそしるを飲むことも多く、みそしるは日本のしょくたくにかかせないものです。

食事しょくじのときには、マナーたいせつも大切にたされています。たとえば、食べるた前に「いただきます」といいいます。これは、食しょく材ざいや作つくってくれた人ひとにかんしゃきもの気き持もちをあらわすことばです。また、食しょくべ終おわった後のちは「ごちそうさま」と言いって、食しょく事じを作つくってくれた人ひとや食たべべ物ものにかんしゃきもします。このようなことばつかを使うことつかで、食しょく事じを大切たいせつにする気き持もちがたわります。

日本にほんでははしつかいかたの使つかい方かたにもマナーたいせつがあります。はしは食たべべ物ものを口くちに運はこぶための道具どうぐですが、使つかい方かたには注ちゅう意いがひつようです。たとえば、はしを食たべべ物ものに立たててさしてはいけません。これは、おそうしきつかで使つかわれる形かたちであり、日にち常じょうの食しょく事じではしつれいしよくじにあたります。また、はしを他たの人ひとに向むけたり、はしで人ひとをさしたりすることつかいかたもよくないまもとされています。こうしたはしつかいかたの使つかい方かたのルるールまもを守まもることで、日本にほんの食しょく事じをより楽たのしむことができます。

また、日本にほんには「茶さ道どう」というでんとうぶんかてきな文化ぶんかもあります。茶さ道どうでは、抹ま茶ちやというお茶ちやを特とく別べつなほうほうさどうでたてて飲のみます。茶さ道どうは、たさだお茶ちやを飲のむだけでなく、心こころをおちつけるためのものさどうでもあります。茶さ道どうには、お茶ちやをたてるてじゅんきや、お客きやくさんへのおもてなしきのほうほうにほんが決きまっております、日本にほんのうつくしい文化ぶんかをかんじることが出来ます。

日本にほんには「わがし」というでんとうぶんかてきなあまい食たべべ物ものもあります。わがしは、きせつはなの花はなやしぜんいろの色いろを使つかったうつくしい見みた目めがとくちさどうょうです。茶さ道どうのときたにいっしょおおに食たべることも多おおく、わがしにほんは日本にほんの文化ぶんかの中なかで大切たいせつにされています。

このように、日本にほんの食しょく文化ぶんかや食しょく事じのマナーたいせつは、たただ食たべるだけでなく、かんしゃきもの気き持もちやうつくしい見みた目めを楽たのしむことが大切たいせつにされています。

■日本にほんのでんとうぎょうじ行事ぎょうじとちいきぶんかの文化ぶんか

日本にほんには、地ち域いきごとにさまざまなでんとうぎょうじ行事ぎょうじや文化ぶんかがあります。たとえば、東とう北ほく地ち方ほうでは「ねぶたまつり」という有ゆう名めいなおまつりぶんかがあります。このまつりでは、大おきなねぶたおおとよばれる人にん形ぎやうをかざり、夜よるにはそれみを見みながらまあちあるを歩あるきます。色いろあざやかなねぶたよぞらが夜けん空ぶつをまてらし、見たの物けん客ぶつを楽ましませます。

また、京都には「ぎおんまつり」というれきしあるおまつりがあります。ぎおんまつりは、日本でもっとも古いおまつりのひとつで、毎年7月に行われます。大きな山車とよばれる車がまちをめぐり、そのうつくしいそうしょくや、楽しい音楽でおとずれる人びとをみりょうします。ぎおんまつりは、日本のれきしやでんとうをかんじることができきちょうな行事です。

さらに、日本には多くのでんとうてきな工芸品もあります。たとえば、九州の有りたやきや、東京の江戸切子などがあります。有りたやきは、うつくしいえがらがとくちょうの焼き物で、江戸切子は、ガラスを細かくけずって作られる工芸品です。こうした工芸品は、長い時間をかけてうけつがれてきたぎじゅつで作られ、日本のでんとうとぎじゅつの高さをかんじることができま。

また、日本のちいきごとの特色もきょうみぶかいです。たとえば、おきなわでは「三線」という楽器を使って音楽を楽しみます。三線は、おきなわのでんとう音楽にかかせない楽器で、どくとくいな音色がとくちょうです。北海道では「ゆきまつり」が有名で、冬のさむいじきに大きなゆきやおりで作られたぞうを楽しむイベントが行われます。多くの人がおとずれ、冬の北海道ならではのうつくしさをかんじます。

このように、日本のかくちにはそのちいきならではの行事や文化があります。ちいきごとのでんとうや特色を知ること、日本のたような文化にふれることができ、日本へのりかいはさらにふかまります。

■日本での日常マナー

日本では、日常生活の中でもさまざまなマナーが重んじられています。まず、公共の場ではしづかにすることが大切です。たとえば、電車やバスの中では、電話で話さないように気をつけます。また、大きな声で話すこともさけるべきとされています。これは、ほかの人がしづかにすごせるようにするためのはりよです。日本では、まわりの人にめいわくをかけないことがとても大切にされています。

いえ たてもの はい 家や建物に入るときにくつをぬぐしゅうかんもあります。家だけでなく、学校
や多くのせつでもくつをぬぐことがもとめられます。げんかんでくつをぬぎ、
せんようのスリッパにはきかえることがいっぱんてきです。これは、家や建物
の中をせいけつにたもつためのたいせつなしゅうかんです。特に家では、くつをぬ
いで入ることで、外のよごれを持ちこまないようにしています。

また、日本ではせいけつさもじゅうそされており、ゴミの分別もじゅうようで
す。ゴミはしゅるいごとに分けてすてるしゅうかんがあり、多くのちいきでは
「もえるゴミ」「もえないゴミ」「しげんゴミ」などに分けられます。この分
別のルールはちいきごとにことなるため、かくちのルールをかくにんすること
がひつようです。こうした分別は、かんきょうをまもるためのとりくみのいっ
かんであり、多くの人がこのルールをまもっています。

こうした日常のマナーを通して、日本の人びとはまわりの人に対する気づかい
や、せいけつさを大切にしています。これらのマナーを知り、まもることで、
日本での生活がさらにかいてきて楽しいものになります。

■文化を楽しむほうほう

日本の文化をふかく楽しむためには、さまざまな体験を通して学ぶことが大切
です。まず、日本人の友だちといっしょに行事やまつりにさんかするのは、と
てもいいほうほうです。たとえば、春の花見や夏のまつり、秋のもみじがり、
冬のしょうがつなど、日本のしきごとの行事に友だちといっしょに出かけることで、
その文化をよりみぢかにかんじることができます。げんちの人と行事を楽しむ
ことで、新しい発見や、日常生活では気づかない文化のこまかいてんにふれる
ことができるでしょう。自分でも日本のでんとう文化にちょうせんしてみるの
もおすすりめです。たとえば、茶道やわがし作りをたいけんしてみるの、とて
もいいほうほうです。茶道では、ただお茶を飲むだけでなく、心をおちつける
大切さや、れいぎさほうのおくぶかさをかんじることができます。わがし作り
では、日本のきせつをかんじさせるうつくしいデザインや、こまかい作業の楽
しさにふれることができます。こうしたたいけんを通して、日本文化のみりよ
くをちよくせつかんじることができます。

さらに、日本の文化やしゅうかんを学びつづけることも大切です。たとえば、ちいきごとにちがうおまつりや行事についてしらべたり、れきしやでんとう工芸についてちしきをふかめたりすることで、日本のたよな文化に対するりかいがふかまります。また、こうしたちしきは、日本をおとずれるかんこうきゃくとしてだけでなく、日本で生活する上でもやくだつことが多いです。このように、日本の文化を楽しむほうほうはたくさんあります。友だちと行事を楽しんだり、自分ででんとう文化にちょうせんしたりすることで、日本のみりよくをさらにかんじることができるでしょう。

■日本の文化が教えてくれること

日本の文化には、他の人を思いやる気持ちや、かんしゃの大切さがたくさんこめられています。たとえば、日常のあいさつやおじぎは、相手に対するそんけいやかんしゃをあらわすものです。人と会うときや別れるときに「ありがとう」「すみません」といったことばをしぜん^に使うことで、人とのかんけいを大切に^{する}気持ちが生まれます。このように、日本の文化は、相手に対してていねいなたいどを持つことを教えてくれます。

また、しきごとの行事や、和食、茶道などのでんとう文化は、しぜんや時間のうつりかわりをかんじることの大切さをつたえています。たとえば、春にはさくらを楽しみ、夏にはおまつり^りで元気にすむし、秋にはこうようを見てしぜんのうつくしさをかんじ、冬にはお正月をむかえるといったながれがあります。こうしたしきおりおりの行事を通して、きせつを楽しみ、しぜんとちょうわして生きることの大切さを学ぶことができます。

食事の前後に「いただきます」や「ごちそうさま」と言うしゅうかんには、食べ物やそれを作ってくれた人へのかんしゃがこめられています。こうしたことばを通して、食べ物をむだにしない気持ちや、作ってくれた人へのけいを持つことがしぜんと身につきま^す。

日本の文化を学ぶことで、ただのちしきだけでなく、人と人とのつながりや、日々の生活を大切に^{する}心をはぐくむことができます。日本のでんとうやしゅうかんには、他の人を思いやり、かんしゃする心がふかくねづいているのです。このような考え方は、日本だけでなく、世界中でやくだつ大切なものです。

「日本の文化としゅうかん」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Easy Japanese-listening-SUSHI